

子どもの本だな 60

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

おかあさんだいすき

マージョリー・フラック 文・絵
光吉 夏弥 訳・編 (岩波書店)

今日は、お母さんの誕生日です。ダニーは、お祝いにあげるものを探しに出かけました。めんどりは卵、がちょうは羽根、ひつじは毛、やぎとめうしは乳、皆があげると言ってくれるのはお母さんの持っているものばかり。めうしは、森に住んでいるくまさんに聞いてみたらと教えてくれました。ひとりで森に入っていったダニーに、くまはそっと耳うちしてくれました。さて、くまの教えてくれたプレゼントとは…? (「おかあさんのたんじょう日」)

繰り返しの楽しいリズムとやわらかい色調の絵は、ストーリーのもつあたたかさを十分に表しています。もう1編、手編みの帽子を誰にも渡したくない男の子のおはなし「おかあさんのあんでくれたぼうし」が入っています。読んでもらえば3歳くらいから。(池田)

ロシアの昔話

内田 莉莎子 編・訳
タチヤーナ・マブリナ 画 (福音館書店)

ある年寄りが、3人の息子に「毎晩、ひとりずつ墓にパンを持ってきてくれ」と言い残して死にました。最初の晩、長男に代わって三男のイワンが墓に行くと、夜中の12時に地面が割れて父親が起き上がりました。次の晩も次男に代わりイワンが行きました。3日目の晩、墓に行ったイワンに父親は三晩も来てくれたことに礼を言い、魔法の馬を呼ぶ轡(くつわ)をくれました。ちょうどその頃、王様がお触れを出しました。イワンは魔法の馬の耳にもぐりこみ絵にも描けないような美しい若者になると、馬に乗って王様の御殿に行き、うるわしうつくし姫の出す難題に挑戦しました。(「魔法の馬」)

広大な土地から生まれたスケールの大きな昔話集。民族色豊かな美しい色彩のダイナミックな挿絵が想像力をかき立てます。読んでもらえば5歳くらいから楽しめます。(西村)

10月	11月	10・11月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				
4日	8日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
11日	15日			原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
18日	22日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30~15:50	吉福 公民館 16:00~16:30

お知らせ

「樹木観察会」を開きます。
森林インストラクターの案内で
身近な木を観察しましょう。

- ・講師：田中 義則 さん
(森林インストラクター)
- ・日時：10月14日(日)
10:00~12:00
- ・場所：図書館周辺
- ・対象：小学4年生以上(20名)
- ・申込：図書館窓口または電話で

『ノモレ』 国分拓 著

新潮社 297頁 2018年6月刊 1,600円 (請求記号) 382.6

2010年、ペルー・アマゾンの奥深くで、「文明を知らない謎の先住民(インゾラド)」が突如姿を現した。すでに絶滅したと思われたインゾラドの出現を、現地の人々は驚き恐れたが、政府は信じなかった。裸で弓矢を持ち言葉も通じないインゾラドは村人を襲い、やがて死者が出た。5年後、ようやく政府は調査を開始し、インゾラドとの接触をはかるため、彼らの居住区に最も近い集落に住む先住民イネ族の若きリーダー、ロメウに協力を求めた。ロメウたちにとって彼らの出現には特別な思いがあった。

「ノモレ(仲間)に会いたい。ノモレを探してくれ。」

ロメウの村に語り継がれる曾祖父からの残した言葉だ。

1902年、アマゾンの入植者たちにゴム農園で奴隷にされた曾祖父たちは、生き延びるため農園主を殺し二手に分かれて森へ逃げた。曾祖父らは故郷へ戻ったが、再会を誓った仲間たちが戻ることにはなかった。森に消えたノモレを探し、待ち続けていた子孫がロメウたちだった。

2015年7月、政府の監視拠点にいたロメウたちの前に2人のインゾラドが現れた。ロメウが「ノモレ!」と何度も叫ぶと彼らは言葉を理解した。ロメウは彼らの好きなバナナを贈り、交流が始まった。彼らはバナナを求めて何度もやって来た。徐々に打ち解け、彼らは9人家族で、一家の長の名は「クツカ」だとわかった。表情も和らぎ会話も増えていった。ところが12月のある日、思わぬ事態が起き、交流が途絶え、彼らは再び森に消えた。

文明との接触で、多くのインゾラド部族が病原菌や銃で絶滅した。そして今、文明社会の波が、わずかに残るインゾラドを飲み込もうとしている。文明とは何か、人間とは何かを考えさせられる。あとがきに、著者が過去に出会った、ある先住民の言葉を書いている。「明日の約束はできないが、今と百年後の約束ならできる。」先住民には私たちとは違った時間が流れているようだ。彼らはずっと先の未来を信じ、今を生きている。そんなノモレとの再会を信じ、ロメウは待ち続けている。

(池之上)

休館のお知らせ

10月24日(水)
~10月31日(水)
特別館内整理のため休館します。
※期間中は返却のみ受付けます。
受付時間 10:00~17:00
(10月30日は除きます)

- * カレンダーの×印は休館日
- * ■は館内整理日
返却のみ受付 (10:00~17:00)
- * 開館時間は 10:00~18:00
金曜日は 20:00 まで開館

10月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	24日から31日は、特別整理のため休館		

11月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

地下水

庭先で手を洗おうと蛇口に手を伸ばしたとき、蛇口のすぐそばに大きなイモムシがいた。イモムシは飛ばないと言いつけ、蛇口に手をかけた途端に、下半身で壁にしがみついたまま、上半身を大きく反らしグラグラ揺れてみせる。慌てて手を引つ込めた。数時間後、イモムシは蛇口から上30cm、横に50cmほどのところでサナギになろうとしていた。

『ツチハンミョウのギャンブル』で著者の福岡さんが、なにかの蝶の幼虫を育てるエッセイがある。羽化を楽しみに世話をしているイモムシが行方不明になり、福岡さんが家中を必死で探す様子がおかしい。それまでむしやむしやと食べてばかりのイモムシは、時がくるとサナギになるのに適した場所を見つげるため移動を始めるらしい。

お前はサナギになるのにいい場所を探していたのか、福岡さんのエッセイを読んだ影響か動き回るイモムシではなくなったからか、少しばかりおらかな気持ちになる。5cmはあった体が半分になり、固まり始めると棒でつついてみた。ぴくっと動いた。緑のサナギになり、今は茶色になつている。つついても、もう動かない。どんな蝶が出てくるか、図鑑で調べたい気もするが、必然的にイモムシの姿も見ないといけないので、毎日の観察を楽しみにしている。

(竹内)

